人権問題学習シリーズ 40

【岩美町人権講演会より】

さる７月１日、講師に藤井輝明先生（鳥取大学教授）を招いて岩美町人権講演会が開催され、約120名が参加しました。

先生は、会場に到着されるやいなや、「今日は」、「お世話様になります」、「宜しくお願いします」・・・と、会う人ごとに気さくに、そして丁寧に挨拶をされていました。とても明るくエネルギッシュな様子に、深い親しみと温かい人柄を感じました。

先生は子どものとき、血管腫により顔の一部が赤く膨らみ、友達からよくいじめを受け辛い経験を経てきた。冷やかしや悪口など言っている側は、相手の心が傷つくという自覚がない。しかし、言われる側にとっては全人格を否定されたように心を突き刺す辛い言葉。これが続くと、断崖絶壁に追いつめられていく。だからこそ訴えて回っているということです。ありのままの自分を見せ、一生懸命伝えれば、必ず分かってもらえると考えてのことです。

以下、90分間の講演の中、いろいろなお話を聞きましたが、その一部を紹介します。

母は、私がいじめられることに悩み、通学路沿いの家庭を一軒一軒、「ここは通学路ですから、子どもが通ります。顔が腫れていますが怖い病気ではありません。朝、玄関に出て声をかけてやって下さい」と頼んで回った。地域の人たちは、朝、にこにこ顔で手を振って挨拶してくれた。何も知らない私は「自分って人気者なんだ」と錯覚していた。今、このような偉大な父母を讃えても讃えても讃えきれない気持です。

母は「理念が間違っていないと分かったら、一人からでも始める勇気を持とう」と言っていた。今年、血管腫に悩む患者とその家族の支援組織「かんたん家族」を結成した。10家族20名が加入している。

母が始めた「子どもたちを見守る取り組み」は素晴らしい取り組みです。子どもたちに声をかけるのも立派な人権啓発活動です。子どもはタイミングのよい声かけや誉め言葉によって、心の安らぎ・自信・意欲を湧かせます。このことは人が成長していく上でとても大切なことです。

人権教育は人作りです。誉め言葉をはじめ、相手が心地よく感じる言葉、「よーし、やるぞ」とやる気を育てる言葉や動作に溢れる温かい地域社会を作っていきましょう。

人権擁護委員ご紹介

このたび７月１日をもって、浦富の広谷一雄さん、岩井の臼井みちよさんが人権擁護委員に委嘱（再任）されました。

みなさんが毎日の生活の中で、人権に関する問題に直面したり、困っている場合に相談に応じ、その解決を促したり助言したりします。

お気軽にご相談ください。

相談日は、毎月の広報をご覧ください。

浦富　広谷一雄さん

岩井　臼井みちよさん

部落解放講座を開催します

●テーマ　「部落」・「差別」って何？●

自分たちが思ってきた「差別」って何なのでしょう。「部落」って何なのでしょう。

もう一度立ち止まって考えてもいい時期ではないでしょうか。

【日時】平成19年８月11日（土）
午後１時30分～午後３時
【講師】鳥取市人権情報センター
坂根　政代　さん
【演題】「人権・同和保育のめざすもの」
【問い合わせ先】岩美町文化センター
☎72－1931